

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟)

事業所番号	0270201726		
法人名	有限会社アップルホーム		
事業所名	グループホーム石川の家		
所在地	青森県弘前市大字石川字岸田152		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた静かな場所に位置し、花卉、野菜、果物の栽培や収穫が楽しめ、一年を通じて四季を感じることが出来ます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270201726&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成22年12月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・全職員の表情に笑顔があり穏やかなため、利用者も穏やかな表情で過ごしていた。広報誌の他に回覧を作り、町内会や市役所などへ回覧し、地域との交流を深めようと努めている。しかし、立地条件が悪く、民家から離れた場所にあるため、来訪者が少ない。今後も継続し、今以上に地域との関わりを持てるよう取り組む姿勢がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着型施設である事を理解した上でそれを踏まえた理念を作り、玄関、各ユニットホールに掲示し共有、実践している。</p>	<p>理念は「地域社会とのつながりを大切に、その人らしく楽しく幸せに暮らしていけるよう支援します」と作成されている。家庭での生活の延長としてホームで生活し、利用者主体の支援内容になるよう職員会議等で、理解を深め実践につなげている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>ホーム便りに来園の呼び掛けを載せ、いつでも気軽に遊びに来て頂けるよう努力している。</p>	<p>事業所の理解を促し、交流を図ることができるように町内会や市役所等へ、回覧や広報誌を配布している。地域の方へ納涼祭への参加を呼びかけたり、近くの小学校と交流を図っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ホーム便りに認知症の事についてや、ワンポイント介護講座等も載せ、理解を深めて頂けるようにしている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営状況や活動状況等を随時行っており、第三者の方々から意見を頂き、棟会議等で個別ケア等に活かす努力をしている。</p>	<p>運営推進会議は年6回開催している。年間行事、自己評価及び外部評価の結果、ホーム内の状況等を報告している。メンバーからもホーム運営への提案等もあり、サービスの質の向上に活かしている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>連絡は必要時行っており相談にのって頂いている。運営推進会議にも参加して頂き協力関係を築く努力をしている。</p>	<p>運営推進会議には地域包括支援センターの職員が毎回出席し、相談等はその都度、市介護課の意見を聞きながら問題解決につなげており、協力体制が整っている。</p>	

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>原則身体拘束をしないという事で取り組んでいる。また、勉強会にて正しい理解を持ちケアに取り組んでいる。それと同時に身体拘束をしないリスクについてもご家族に説明している。</p>	<p>マニュアルに沿って勉強会を開催し、理解を深めている。身体拘束は行わない方針で重要事項説明書に記載し、家族に説明をしている。玄関の施錠は夜間のみで、共有スペースは職員が目届く設計になっており、玄関前の事務室には必ず職員がいるので、見守りの体制が整っている。その他利用者の処遇について話し合い、拘束を行わないよう努めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修参加及び勉強会にて虐待の具体例等を理解し、防止を徹底している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>研修参加及び内部研修にて制度の理解に努めている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>必ず重要事項、契約の説明を行い、疑問点やご家族の要望を受け入れている。理解、納得されてから署名して頂いている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から利用者とのコミュニケーションを図り不満等の訴えがしやすいよう整えている。苦情、相談窓口を設け、相談にのっている。また、公共の相談窓口の紹介等をして、一つひとつの問題に適切に対応している。</p>	<p>日々の会話や表情等から観察し、利用者の思いを受け止めるよう努めている。家族の方は月一回、利用料納入のため来訪するので、その際、意見を聞くよう努めている。また、運営推進会議に参加していただくよう声を掛けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ミーティングにて問題提起し、様々な意見を調整、反映させている。また、連絡ノート等も活用している。日頃から意見交換を行っている。	利用者の処遇について、毎日の申し送りや連絡帳を通して情報収集し、管理者と職員が意見交換を行っている。また、資格取得のための支援をし、サービスの質の向上を目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就労しやすい環境作りを目指し、各職員同士交流を持ち協力し合いながら業務に努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修の他、公共の研修で切磋琢磨し、介護の質の向上や精神面の強化を図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本認知症グループホーム協会に加入し、情報収集に役立てている。研修等に参加し、他事業所職員との交流を図り、相談等がしやすい関係を築き、日々のサービスの向上や職員育成に役立てている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と直接面談し、思いを把握する事に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と直接面談し、問題点、対応方法、要望等を話す機会を設け、疑問点等を曖昧にしないよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々のニーズをしっかりと受け止め、出来る事、出来ない事をお話しすると同時に他のサービスの情報提供を行い、利用者、家族のニーズの明確化を図るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのふれあいを通して信頼関係を築き一方的な介護ではなく、共同生活の中で共に支え合っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、利用者のニーズの違いが生じる場合、話し合いを設け、傾聴し、調整を行い、安らぎのある環境作りを心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人がホームに会いに来てくれる。電話や手紙のやり取りをいつでもできるよう支援しており、変わらない関係を継続できている。	友人が会いに来た時や、電話や手紙のやり取り、行きつけの美容院へ出掛けたりと入居前と変わらない関係を継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し、利用者同士の関係悪化、孤独やトラブルを未然に防ぐよう配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、今後も変わらず相談等に応じる事を伝えている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話から、また、意向の表出が困難な利用者には表情や日常の様子、家族からの情報から判断して利用者の立場で検討し、出来る限り希望に応えている。	入居時にはアセスメントし、入居後は日常生活の中で利用者の意見や要望を把握するため情報収集に努めている。管理者、職員は日々話し合いを行い良いサービスを提供できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、これまでのサービス利用状況等の情報を収集し、出来る限り馴染みの暮らし方が送れるよう支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活習慣やリズムを把握し対応している。毎日バイタルチェックを行い、心身の状況把握に努め、健康に暮らして頂けるように努力している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	棟会議の他、担当者会議でも意見やアイデアを出し合い、話し合いをし、本人や家族からの要望も可能な限り取り入れている。	計画作成時、利用者からの情報収集が不十分な時は家族や関係者から収集し、管理者・職員で意見交換や気付きを話し合っている。利用者に変化が見られた時は随時、計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々人のケース記録を作成し、毎日の記録を通して状況の変化に対応している。3ヶ月ごとの見直しを行っているが、心身状態に大きな変化や本人及び家族の希望により介護計画の変更希望がある場合は柔軟に対応している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	地域の民生委員、婦人部、駐在所の巡査等から理解と協力を得ている。			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	本人、家族と相談しながら主治医の選択をし状態の悪い場合等は往診もして頂いている。	入所前と入所後の受診経過を記録し、職員間で把握するよう努めている。協力医療機関の他、かかりつけ医の受診にも対応し、受診結果を家族に報告し共有を図っている。		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	訪問看護ステーションとの医療連携体制を整えており、特変時等に対応して頂いている。			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	家族や病院への状態確認を随時行っている。病院への情報提供も積極的に行い、関係が途切れないように努力している。当施設への紹介等も受けている。			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化や終末期に向けた方針は重要事項に載せ、家族に説明、納得して頂いた上で署名、捺印して頂いている。	利用者の重度化や終末期における指針を作成しており、重度化、終末期に至った際は医療機関とも情報交換をしながら、家族も含め話し合いをしている。また、入居時に説明し、納得してもらった上で署名・捺印を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアル等を作成し、勉強会を開催する等し、周知している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。利用者の避難誘導の対応は職員間で話し合っており、運営推進会議で地域の方々に協力をお願いし緊急連絡網に名前を載せる等させて頂いている。	避難訓練計画に基づき年2回、昼夜を想定した避難訓練が職員と利用者で実施されている。近隣の方の協力を得るため働きかけをしているが、参加状況は思わしくない。災害時における行政ならびに近隣住民との救援体制づくりを目指している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として尊敬する気持ちを持ちながら対応しており、入居者の話をよく聞きながらさりげない支援をしている。	会話は穏やかに言動を拒否したりせず、名前は「さん」付けで呼び、尊厳を持って自立を保持できるよう支援している。排泄時や入浴時は羞恥心に配慮しながら支援を行い、失禁や食事中の食べこぼし等は、他の利用者に気付かれないよう、さりげなく対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物、外食等は入居者の希望に合わせて支援しており、利用者の自己決定を尊重している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは決まっているが、個人のペースや希望を大切にしている。身体、精神状況に合わせた支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へ送迎している。美容院での整髪が困難な利用者へは職員が直接支援している。衣類の乱れが見られた時はさりげなく小声で声掛けし、直すことをしている。			

自己外部		項目	自己評価		外部評価		
			実践状況		実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や畑で収穫したもの等も使用し、利用者の状態に合わせて、一緒に調理したり片付けをしている。食器等も個々人の使いやすい物を使い利用者のペースで食事している。		ボランティアの栄養士がカロリー計算をし、利用者の嗜好を把握した上で食事を提供をしている。調理の下準備や後片付けを利用者・職員と一緒にいき、毎食職員と利用者が会話を楽しみながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取状況の記録をしている。水が苦手な利用者にはお茶やお湯等も提供したりし、体調不良にならないよう配慮している。		/		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が声を掛け、歯磨きや義歯の手入れ、口腔清拭等を支援している。		/		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄状況のチェックをし、出来るだけトイレで排泄出来るように支援している。誘導の際もさりげなくプライバシーに配慮しながら支援している。		排泄状況は細かく記録され、排泄パターンを把握しており、事前誘導する事で、失禁予防につなげている。利用者の失禁やおむつ交換の際には、利用者の尊厳を傷つけないように配慮されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、排便状況を把握している。安易に下剤に頼らないよう日中の活動を促したり、水分、食物繊維を多く摂れるよう支援している。下剤服用者には、医師へ状態報告し、指示をもらい調整している。		/		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入る順番等、出来るだけ希望に沿った形で入浴出来るよう配慮している。日曜日以外は各棟交互に入浴日としているため希望があれば毎日入浴出来るようにしている。一人ひとり入浴している。		利用者の入浴習慣や好みの把握に努めている。ユニットごとに毎日午前中に実施し心身の状態を観察しながらいき、着脱や洗身で不足部分を介助している。また、拒否する方へは声掛けを工夫しながら促している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を積極的に行ったり、生活のリズム作りに努めている。入浴日以外は足浴したり、夜間眠れない場合は付き添いしたりしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ケースに管理し、それぞれの服薬内容を把握しており、薬の変更時は申し送りノートで情報を共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴等から特技、趣味等を活かし、食事準備、レクリエーション、軽作業、余暇活動を通して役割や存在感が出てくるように支援して自信や楽しみを持って頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に合わせてホーム周辺の散歩をしている。 買い物の希望があれば一緒にデパートへ出掛け買い物の支援をしたりしている。	行きつけの美容院や買い物、小学校の学習発表会に出かける他、月に1回は利用者の希望を聞きながら、食事会や季節に合わせて散策に出掛けている。家族にも参加してもらおう働き掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量に応じ、可能な場合は所持金(小遣い程度)を管理して頂き、欲しい物を選びお支払いまでして頂く。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信は自由にしており、電話や手紙の際、支援が必要な方は職員がお手伝いしている。			

自己外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を取り入れた装飾をし、四季を感じて頂いている。室内の明るさの調整、音量の調整を行い、不快感を与えないようにしている。</p>	<p>ホームはバリアフリーで、手すりが設置されているので安全に移動できる。大きな窓から明かりが入り込むが、カーテンで調整され、温度・湿度も記録し過ごしやすい環境作りに努めている。職員の物音やテレビの音量も騒がしくなく静かな過ごしやすい空間となっている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>数人用ソファへの移動介助する事により、他者と隣同士で会話されたり、自席で過ごしたりと思い思いに過ごせるようになっている。</p>			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具等を持ってきてもらえるよう家族へ働きかけて持って来て頂いてる。安全面に配慮しながらも家庭的な雰囲気から遠ざからないよう工夫している。</p>	<p>利用者は共有スペースで過ごす時間が多いが、居室には位牌や写真等利用者の馴染みの品が持ち込まれ、「その人らしく楽しく幸せに」という理念に基づいた生活できるよう雰囲気作りに配慮し、一人ひとりにあった居室作りを行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の潜在能力を最大限に引き出すために、本人が出来る事は自分でして頂き、手すりやバリアフリー等安全に活動出来るように配慮している。</p>			